

## 第3学年2組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

### 1 単元 「幼児の生活と家族」

#### 2 指導観

- 現在の日本社会は、少子高齢化や家族の形態の多様化などで、中学生の多くは、家庭内や近隣地域において幼児と触れ合う経験が得にくい状況にある。将来的に、幼児を取り巻く大人として、幼児を見守りながら、適切にかかわることが求められる立場になっていくことを踏まえると、中学生に幼児や幼児と家族とのかかわりについての知識を深め、幼児を自分自身の身近なものとしてとらえるために、幼児について実践的・体験的に学習していくことのできる機会を設けることが重要であると思われる。本単元では、幼児期の聞きとりや幼児とのふれあい体験などの実践的・体験的な学習活動を通して幼児や幼児と家族のかかわりなどについての関心を高め、自分自身に身近な課題として感じられるような学習を展開することによって、幼児について意欲的に学ぼうとする姿勢や、幼児を取り巻く大人としての立場を実感しながら、幼児とのかかわり方を工夫し、積極的に実践していくことのできる能力と態度を育てることをねらいとしている。
- 生徒は、小学校で自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さに気づく学習をしている。また、一年生の家庭科の学習の中で、中学生になるまでの自分の成長が家族や周囲の人々に支えられてきたことを学習している。本学級の生徒の家庭の大多数は核家族であり、事前の調査の結果では家族に幼児がいる4%、生活の中で子どもとふれあう機会はある47%、子どもは好き85%であった。幼児に対するイメージは、かわいい・元気・小さいとプラスイメージを持っており、将来的に子どもはほしい73%であった。その反面、うるさい・しつこい・弱いなどのマイナスイメージももっている。このことは、日常的に幼児と接する機会がなく幼児の成長に合ったかかわり方を理解していないため生活の中で課題を見つけて改善していこうと主体的に考え実践する力が学習過程で不足していたと思われる。
- 本単元の指導にあたっては、幼児の心身の発達にはそれを支える家族の役割が大切であることを重視し、幼児の成長とこれまでの自分の成長を振り返る授業づくりを心がけたい。
  - ・単元の導入段階では、子どもが育つ環境が大切であることを理解させるために、幼児の心身の発達や幼児の生活習慣の習得について・幼児の遊びと生活の特徴を知らせ、具体的な場面を設定して、場面に応じて周りの人々がどのように幼児とかわるとよいか考えさせる。
  - ・単元の展開段階では、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できるようにするために、幼児とふれあう体験活動を持つ。課題・目的を持った体験活動にするためにウェビングマトリックスを活用した活動を設定する。さらに考えを分かりやすくまとめるためにグループで話し合う場を設定する。
  - ・単元の終末段階では、幼児の生活に関心をもち、課題を持って幼児の生活について工夫できる活動を設定する。子どもの成長に応じた言葉かけを工夫する場面では、幼児の心身の成長段階をデータチャートにまとめさらにステップチャートを用いてより実感のある言葉を選んでいく。お互いが考えた言葉かけを共有化して幼児が育つための環境としての家族や自分にできることがあることに気づき、家族や他者を思いやる心が育っていくと思われる。さらに、おやつ作りの場面では、幼児のおやつの大切さを考えさせるためにステップチャートを用いて幼児にふさわしい・ふさわしくないおやつを理由を考えていく。お互いが考えた理由を共有化しふさわしいおやつを選んでいくなかで幼児のおやつの大切さに気づき、幼児に関心をもち幼児の生活に工夫しようとする態度が養われると思われる。

#### 3 単元の見込み

- 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境について理解できる。（知識・技能）
- 幼児ふれあい体験の活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できる。（思考力、判断力、表現力等）
- 幼児の生活に関心をもち、課題を持って幼児の生活について工夫できる。（学びに向かう力、人間性等）

4 単元指導計画（全15時間）

知識及び技能…〔知〕 思考力、判断力、表現力等…〔思〕 学びに向かう力、人間性等…〔学〕

次	時	学習活動・学習内容	ねらいと具体的な支援	評価の観点（方法）
一	7	<p>幼児の発達と生活の特徴を知ること、子どもが育つ環境が大切であることに気づく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼い頃を振り返る。</li> <li>2 幼児の体の発達について考える。</li> <li>3 幼児の心の発達について考える。</li> <li>4 幼児の生活習慣の習得について考える。</li> <li>5 幼児の生活と遊びを知る</li> <li>6 ネームバンドを製作する</li> </ol>	<p>幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境について理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃん人形を用いて、出生時の身長、体重を実感させる。</li> <li>・具体的に場面を設定して、場面に応じて周りの人々がどのように幼児と関わるとよいか考えさせる。</li> <li>・年齢によって遊びに変化が見られることに気づかせるために、映像や写真を活用する。</li> <li>・幼児ふれあい体験で使うネームバンドを製作する。</li> </ul>	<p>・幼児の体と心の発達について理解している。 〔知〕：(学習プリント)</p> <p>・情緒やことば・社会性の発達に周囲の人や環境の影響が大きいことに気づく。 〔知〕：(学習プリント)</p> <p>・幼児にとっての遊びの持つ意義について理解している。 〔知〕：(学習プリント)</p> <p>・ネームバンドを作ることが出来る。 〔技〕：(作品)</p>
二	5	<p>幼児とのふれあい体験を通して幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児との関わり方を考える。</li> <li>2 幼児との関わり方についてまとめる。</li> </ol>	<p>幼児ふれあい体験の活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫出来るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児と触れ合うことをプラスに高めるためにクラスでの意見交流の場を設定する。</li> <li>・幼児と触れ合う活動に向けて幼児に関心を持ち、課題・目的を考えさせる。</li> <li>・課題解決の見通しを考えるために、思考ツールを活用した活動を設定する。</li> <li>・考えを分かりやすくまとめるためにグループで話し合う場を設定する。</li> </ul>	<p>・幼児とのかかわりを想定し、自分の課題を設定できる。 〔知〕：(学習プリント)</p> <p>・幼児の心身の発達の特徴を考え、幼児とのふれあいやかかわり方の工夫ができる。 〔思〕：(体験態度)</p> <p>・実践したことを整理し、レポートにまとめることができる。 〔思〕：(レポート)</p>
三	3	<p>子どもと家族</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもにとっての家族について考える。</li> <li>2 おやつ作り。</li> </ol>	<p>幼児の生活に関心をもち、課題を持って幼児の生活について工夫できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決の見通しを考えるために、思考ツールを活用した活動を設定する。</li> <li>・幼児のためのおやつ作りの場を設定する。</li> </ul>	<p>・子どもの成長に応じた家族の言葉かけを工夫することができる。 〔思〕：(学習プリント)</p> <p>・幼児の発達や生活の特徴をふまえながら、幼児のおやつ作りにかかすことができる。 〔学〕：(実習態度)</p>

5 本時 令和元年11月15日(金) 第5校時 3年2組教室において

(1) 本時の指導観

前時まで、幼児の言葉かけについて考え、成長に応じた言葉かけの工夫を学習している。そこで本時は、幼児にふさわしいおやつについて考え、幼児を育てる環境としてのおやつの大切さを考えさせたい。そのために、幼児と中学生のおやつの場面をイメージさせて生徒に本時の活動への課題意識をもたせる。次に、展開場面では、幼児にふさわしいおやつを考えさせる。ここではおやつの見本提示し、ステップチャートを活用してふさわしいおやつとふさわしくないおやつの理由を考え、全体で交流する。さらにまとめの場面では、幼児のおやつの大切さを理解し、幼児の生活に関心を持ち、幼児の生活について工夫できる姿につなげたい。

(2) 本時の主眼

- ・子どもを育てる環境としての家族の役割を理解できる。

(3) 準備

- ・学習プリント・振り返りプリント

(4) 展開 (ゴシック…思考ツールの活用場面)

段階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点 (方法)
つ か む / さ ぐ る / 深 め る / 見 つ め 直 す	<p>1 学習の目標を確認する。</p> <p>幼児や中学生はどんなときにおやつを食べますか。</p> <p>めあて</p> <p>幼児にふさわしいおやつとは何かを考えよう。</p>	<p>○本時の学習につなげるために前時までの学習のふり返しを行う。</p> <p>○おやつの役割を考えさせるために、幼児・中学生の1日生活を考え、事前アンケートの結果よりおやつの果たす役割を想像させる。</p>	<p>・幼児のおやつについて理解している。 [知]：(学習プリント)</p>
	<p>2 幼児にふさわしいおやつについて考える。</p> <p>(1) 幼児にふさわしいおやつとふさわしくないおやつについて考える。</p> <p>(2) 保育園で出されているおやつの試食をする。</p> <p>(3) おやつの見本について幼児にふさわしいかふさわしくないかの理由をステップチャートに記入する。</p> <p>(4) 班で交流したものをまとめる。</p>	<p>○本時活動への関心を高めるために、おやつの見本を提示する。</p> <p>○幼児のおやつを身近にとらえるために「マカロニあべかわ」を試食する。</p> <p>○資料として保育園のおやつの献立表を提示する。</p> <p>○幼児にふさわしいおやつを考える場面において、見通しをたてるためにデータチャートを活用する。</p>	
	<p>3 本時のまとめを行う。</p> <p>・幼児にふさわしいおやつとは、栄養のバランスを考えて食事の一部として考えること。幼児がおやつを楽しめる工夫を考えること。</p>	<p>自己内対話で目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児と中学生ではおやつのとり方が違うし、内容も発達段階に応じたものがよいことがわかった。(具体)</li> <li>・幼児の時におやつを手作りして食べさせてもらったと思う。これからの生活で幼児とのかかわり方を考えていこうと思う。(共感)</li> </ul>	
	<p>4 『思考力・表現力 up のためのスキル表』を活用し、学習の過程でわかったことやわからなかったことを書き、発表する。</p>	<p>○自己内対話を促し、考えを広げるために、振り返りシートを記入させ発表させる。</p>	